

## 第2章 石狩市における男女共同参画に関する現状と課題

### 1 市民調査

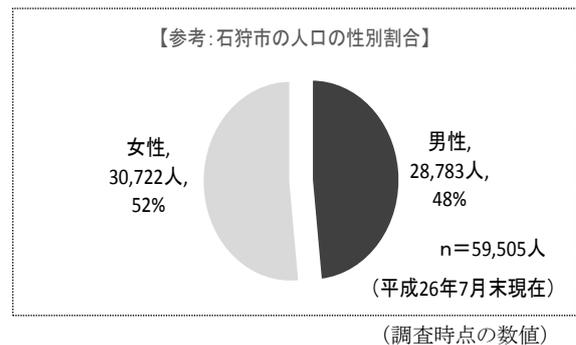
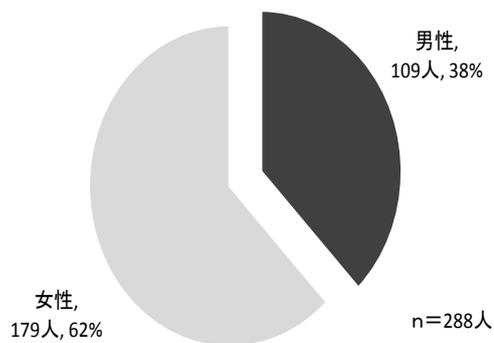
#### 【1 調査概要】

本市における男女平等及び男女共同参画に関する意識の変化や現状と課題を把握するため、平成26年8月から9月にかけて調査を実施しました。

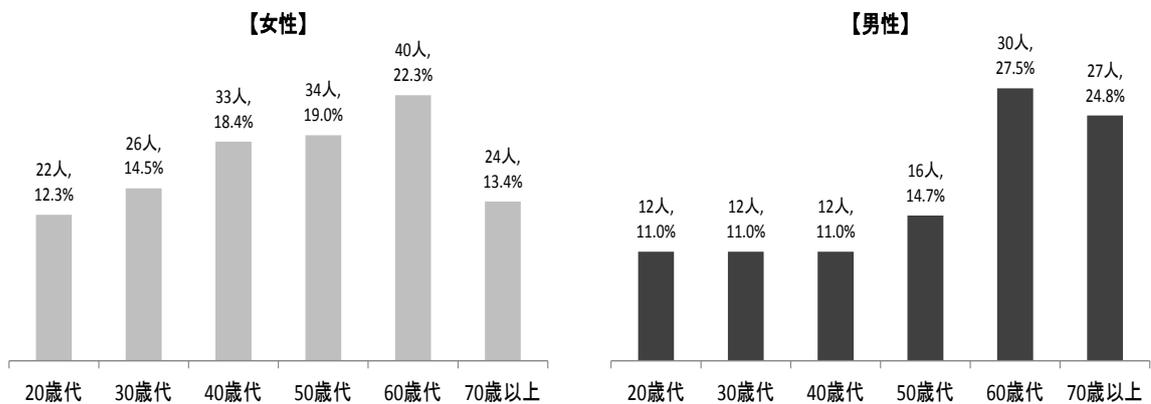
調査票を市内在住の20歳以上の男女1,100人に送付し288人分を回収、回収率は26.2%でした。男女別の回収率は、女性が179件で32.4%、男性が109件で19.8%となっています。

#### 1 回答者の属性

##### (1) 性別



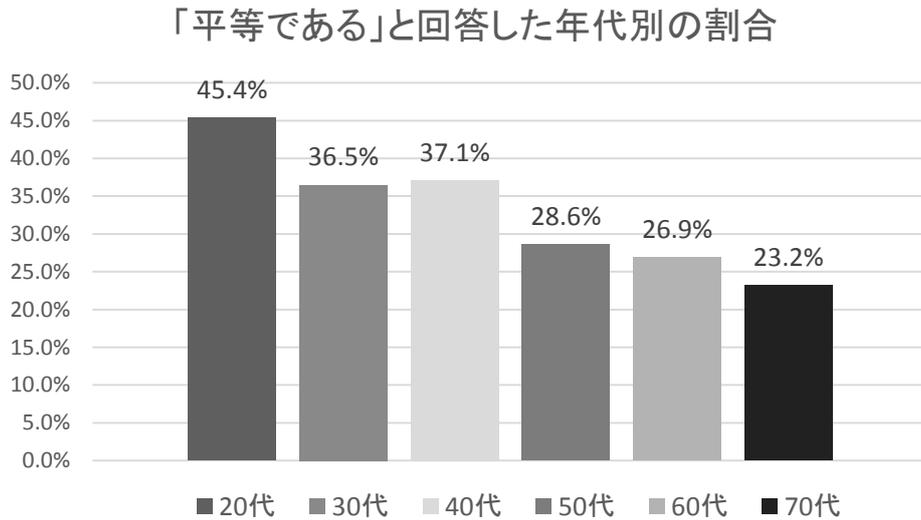
##### (2) 年齢



## 【2 男女共同参画に関する市民意識調査】

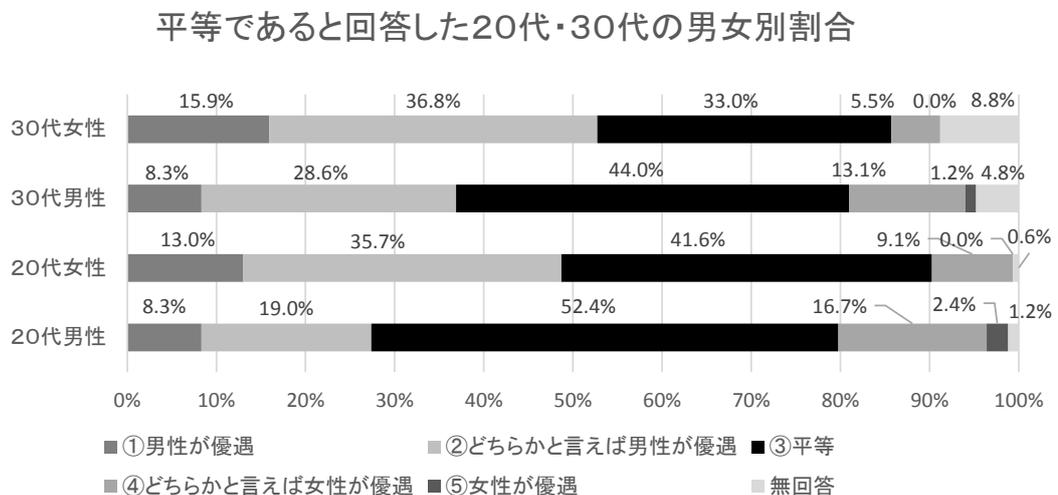
### 1 男女平等に関する意識について

「平等である」と回答した年代別の割合は、20代が最も高く45.4%、70代が最も低く23.2%と、年代が上がるにつれ「平等である」と回答した割合が低くなる傾向にあります。



最も高い20代でも45.4%と半数以下である結果を鑑みると、年代を問わず広く啓発することが必要であると考えますが、今後、地域社会全体で「男女共同参画社会」を推進していくためには、子どもの頃からの意識づくりが必要不可欠であるため、若年層に対する取り組みが優先すべき課題であると考えます。

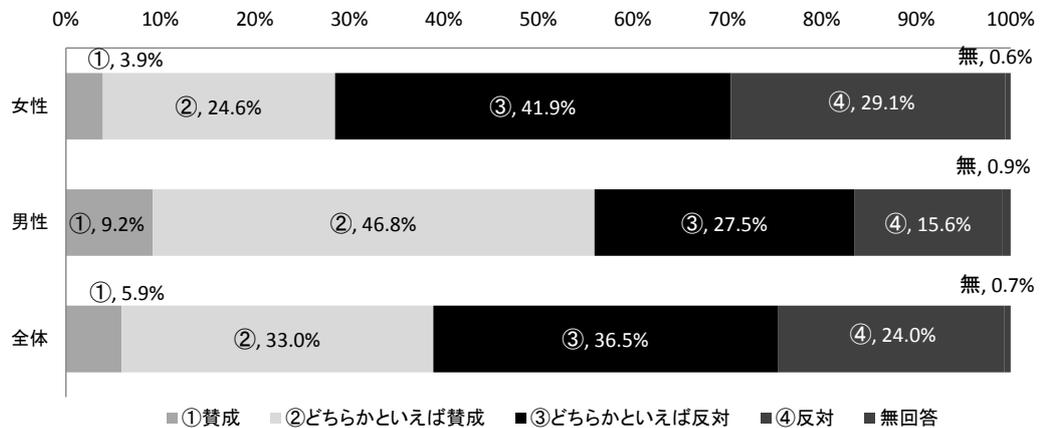
なお、「平等である」と回答した男女別の割合は、20代・30代ともに女性より男性のほうが、約10ポイント高く、「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した割合は、20代で21.4ポイント、30代で15.8ポイント男性より女性の方が高い結果となっています。



2 男女の役割分担や家庭生活について

(1) 男女の固定的な性別役割分担意識

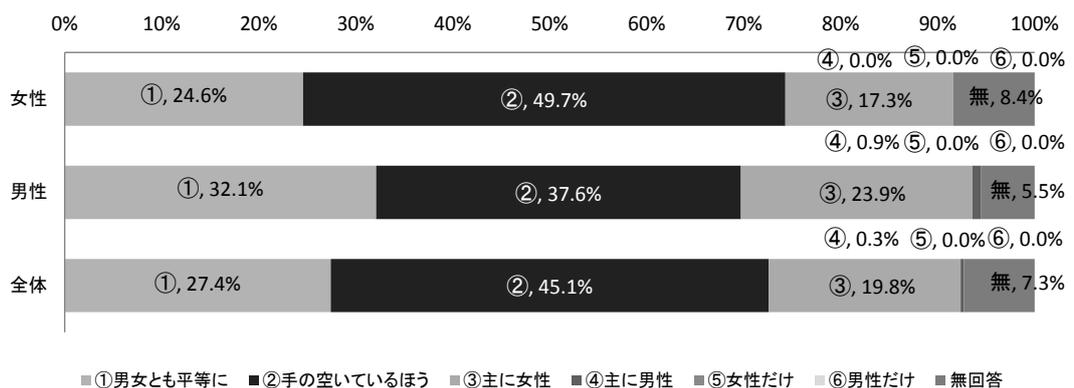
「男は仕事、女は家庭」というように性別によって役割を決める考え方について、「賛成」(①と②の合計)と回答した割合は、女性が28.5%、男性が56.0%と意識に大きな差があることが分かります。



(2) 家事育児の役割分担意識

「男女平等に」と回答した割合は、女性が24.6%、男性が32.1%と男性のほうが高い一方で、「手の空いているほう」と回答した割合は、女性が49.7%、男性が37.6%と女性のほうが高い結果となりました。

また、男女ともに「主に女性」と回答した人がいるのに対し、「主に男性」と回答した人はほとんどいませんでした。



(3) 家庭生活

家事の各項目を実際に誰が従事しているかについて回答した割合は以下のとおりとなっています。

【配偶者や家族と分担していると回答した割合が高かった項目】

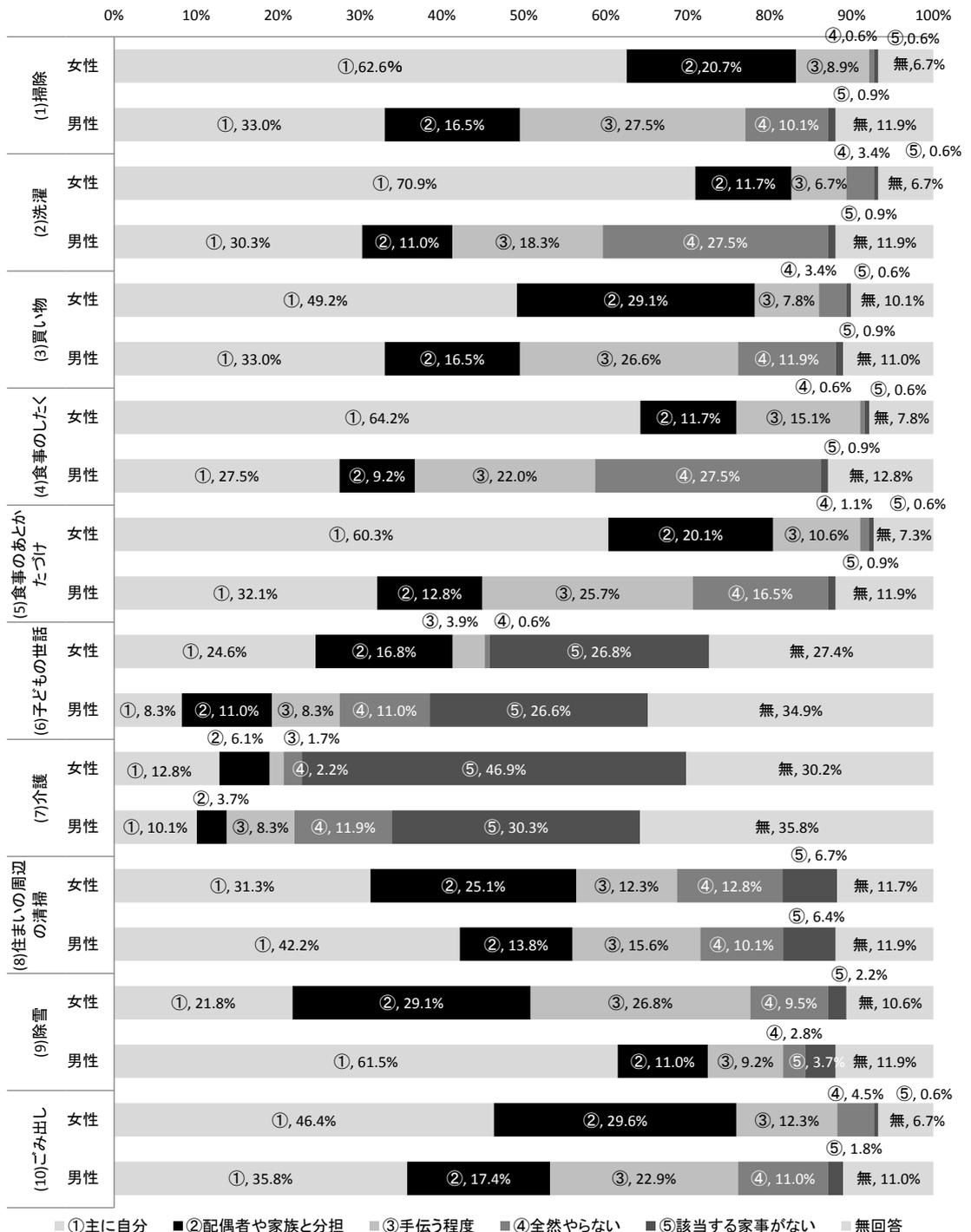
女性の回答 (3) 買い物29.1%、(9) 除雪29.1%、(10) ごみ出し29.6%

男性の回答 (1) 掃除16.5%、(3) 買い物16.5%、(10) ごみ出し17.4%

【主に自分と回答した割合が高かった項目】

女性の回答 (1) 掃除62.6%、(2) 洗濯70.9%、(4) 食事のしたく64.2%

男性の回答 (8) 住まい周辺の清掃42.2%、(9) 除雪61.5%、(10) ごみ出し35.8%



3 ワーク・ライフ・バランスについて

(1) ライフスタイルの希望と現実

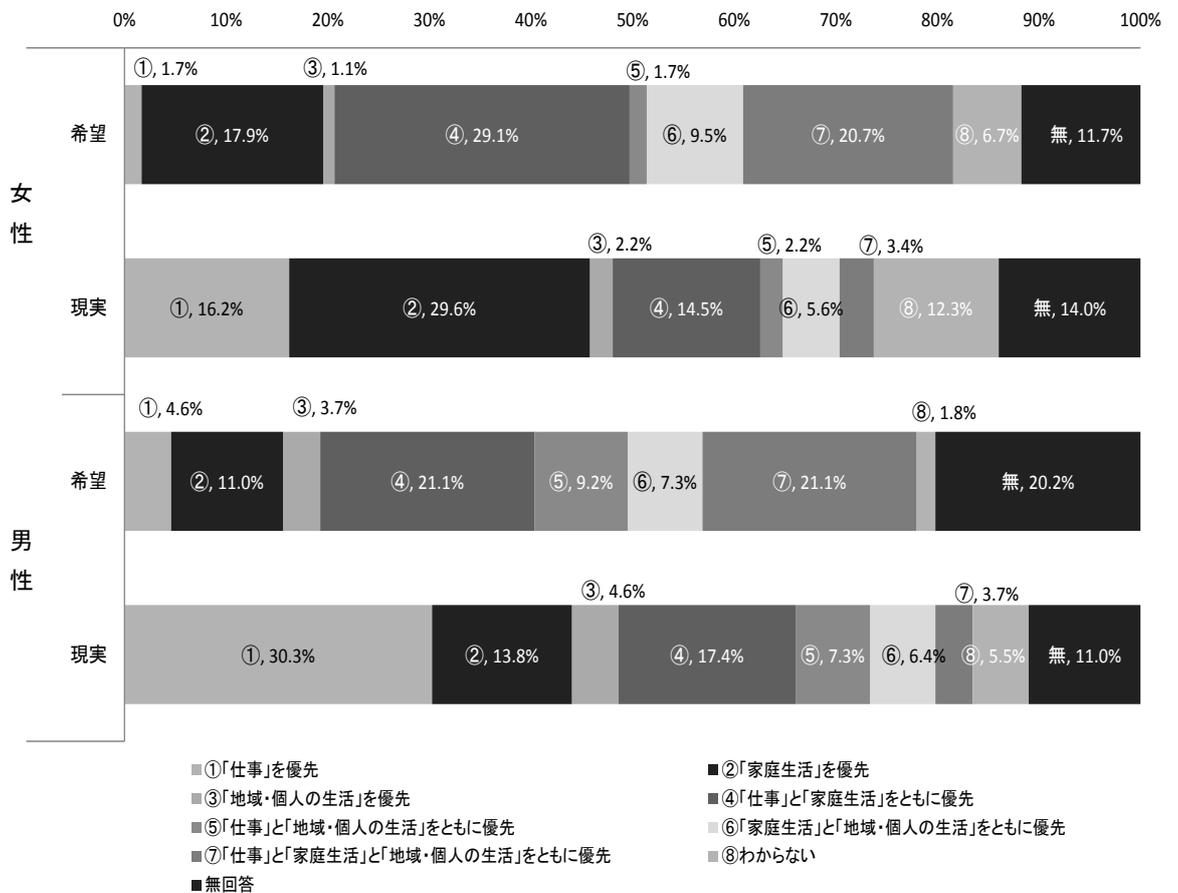
女性と男性がそれぞれ希望するライフスタイルと現実のライフスタイルの回答割合は以下のとおりで、女性も男性も希望と現実ギャップが生じていることが課題であると考えます。

【女性の回答】

- ・希望で最も割合が高かったライフスタイル  
「④『仕事』と『家庭生活』をともに優先」で 29.1%、
- ・現実で最も割合が高かったライフスタイル  
「②『家庭生活』を優先」で 29.6%

【男性の回答】

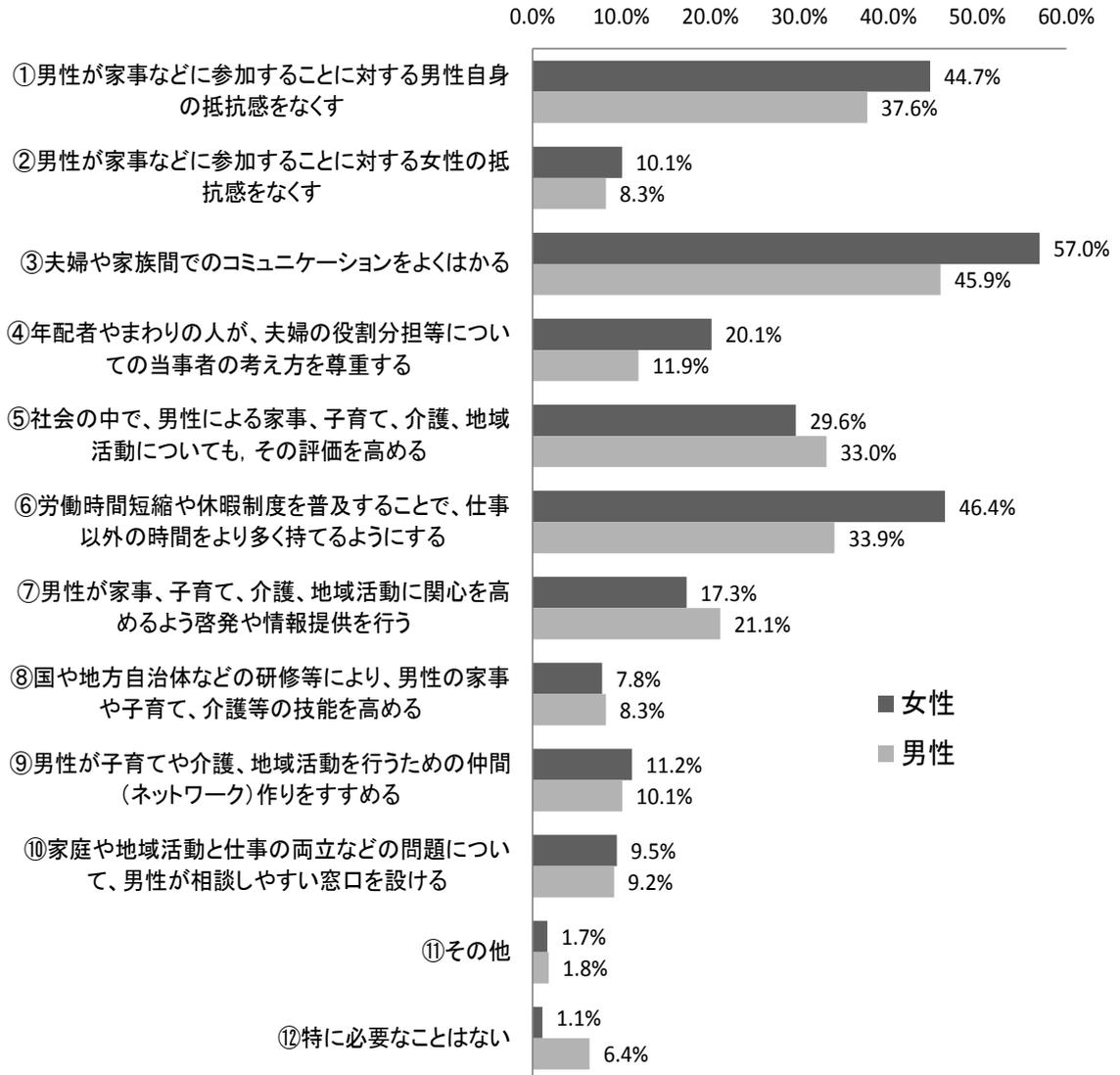
- ・希望で最も割合が高かったライフスタイル  
「④『仕事』と『家庭生活』をともに優先」と  
「⑦『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」で 21.1%
- ・現実で最も割合が高かったライフスタイル  
「①『仕事』を優先」で 30.3%



(2) ワーク・ライフ・バランスに必要なこと

今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うことについて、男女共同参画とも割合が高かった項目は以下のとおりとなります。

- ・夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
- ・労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- ・男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす

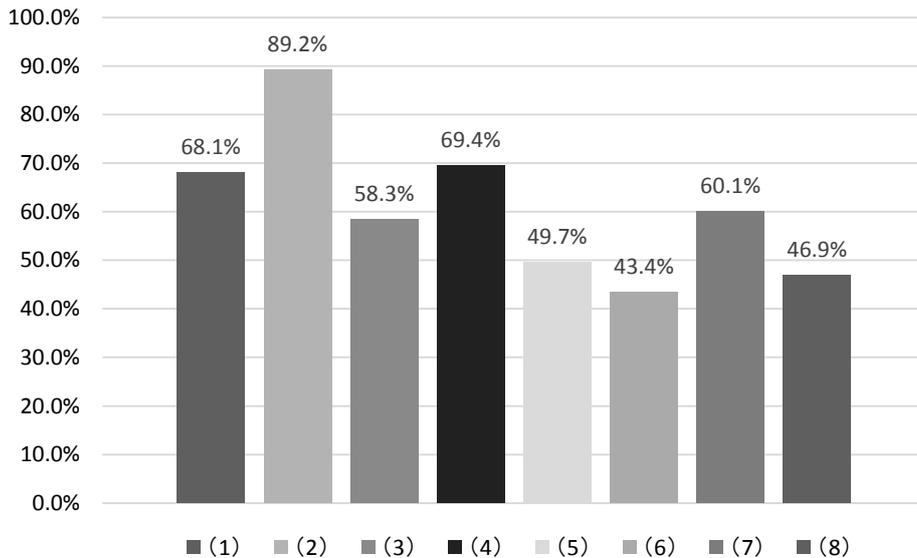


### 【3 男女間における暴力に関する市民調査】

#### 1 女性に対する暴力について

ある一定の行為や行動が「暴力にあたると思う」と回答した割合をしてみると、(1) (2) (4) の身体的な暴力についての認識が、ほぼ7割以上と高い一方で、(5) (6) (8) の精神的な暴力についての認識は、いずれも5割未満と低い傾向にあります。

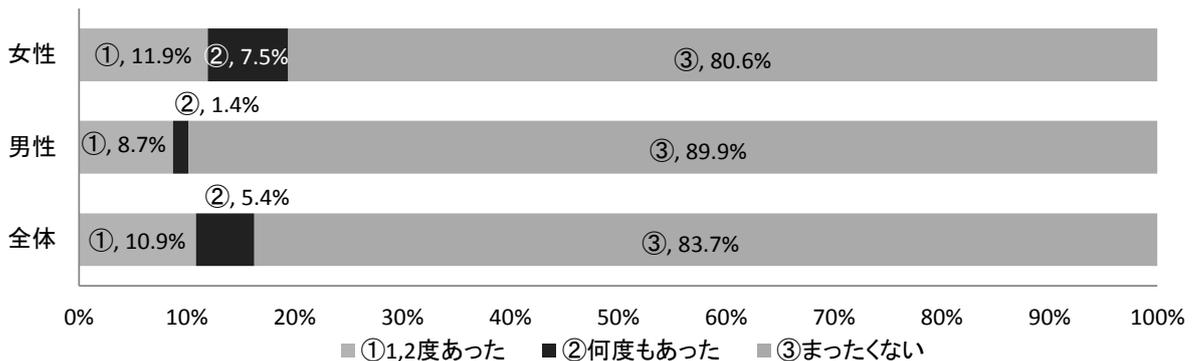
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合



- (1) 平手で打つ
- (2) 身体を傷つける可能性のある物でなぐる
- (3) なぐるふりをして、おどす
- (4) いやがっているのに性的な行為を強要する
- (5) 何を言っても長期間無視し続ける
- (6) 交友関係や電話を細かく監視する
- (7) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う
- (8) 大声でどなる

#### 2 DV 被害の状況について

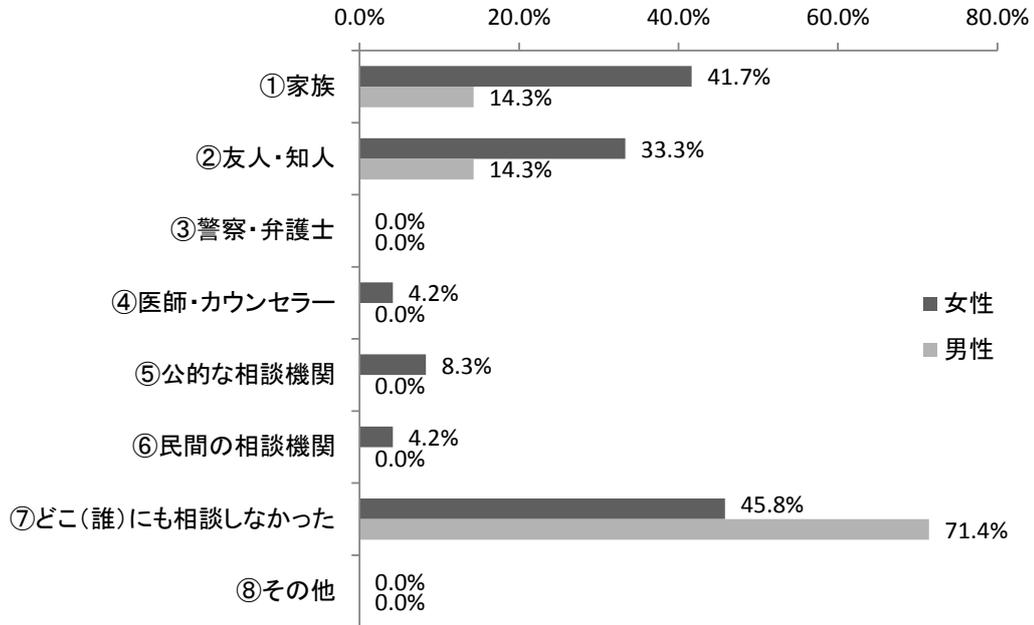
結婚（事実婚を含む）をしたことのある人のうち、過去5年間にDV被害にあったと回答した割合は、全体で16.3%、男女別の割合をしてみると、男性よりも女性の方が被害にあった割合が高く、男性が10.1%と10人に1人程度の割合で被害にあっているのに対し、女性は19.4%と5人に1人近くが被害にあっていることがわかります。



3 DV被害の相談について

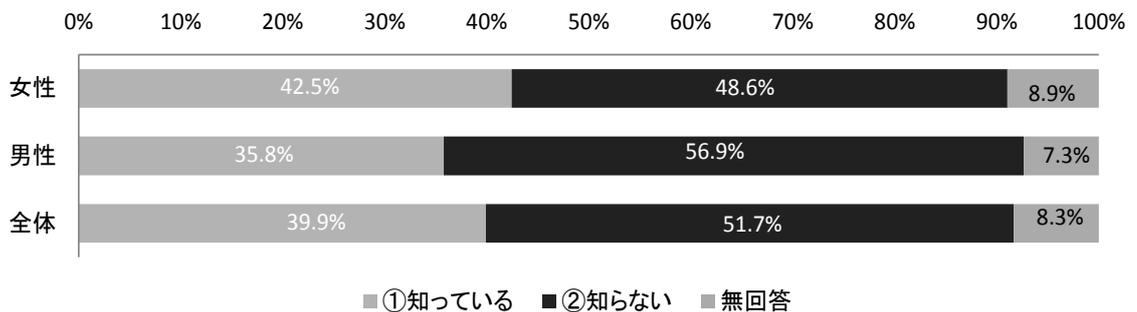
DV被害を受けた時に、どこ(誰)にも相談しなかったと回答した割合は、男性が71.4%、女性が45.8%と約半数以上が相談していないことがわかります。

また、相談をする際は家族や知人・友人など身近な人に相談する傾向にあります。



4 DV被害の相談窓口の認識について

DV被害の相談窓口を知っていると回答した割合は、男性が35.8%、女性が42.5%と半数以下に留まり、さまざまな場所や年代に窓口を周知することが必要であると考えられます。



## 2 第2次計画の進捗状況

第2次計画では、基本目標ごとに成果指標を定め進捗状況の管理を行いました。

「Ⅲ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という用語の周知度」や「Ⅳ 保育所の待機児童数（申請待機の年間平均）」、「Ⅴ 乳がん検診受診率」を除く全ての項目で目標値に達していませんが、計画初年度の平成23年度から比較すると、おおむね目標値に向けて数値が伸びています。

一方で「Ⅰ 男女共同参画社会」という用語の周知度」や「Ⅳ 配偶者暴力防止法の認知度」については、低い数値となっています。

以上のことから、年代を問わず広く市民に啓発することが必要であると考えますが、今後、地域社会全体で「男女共同参画社会」を推進していくためには、子どもの頃からの意識づくりが必要不可欠であるため、若年層に対する取組みが優先すべき課題であると考えます。

### 成果指標の達成度

	項 目	実 績 値					目標値
		H23	H24	H25	H26	H27	H27
Ⅰ	「男女共同参画社会」という用語の周知度	24.2%	50.9%	53.6%	54.5%	55.6%	100%
	市役所における男性の育児休業取得者の人数	0人	1人	0人	0人	※0人	累計で5人
Ⅱ	市の審議会等委員に占める女性の割合	25.7%	24.9%	31.6%	36.2%	36.9%	40%
	市役所の管理・監督職（主査職以上）に占める女性の割合	10.9%	13.1%	13.9%	14.0%	14.1%	18%
Ⅲ	職場・職業で男女平等と感じる人の割合	—	—	—	18.4%	—	30%
	「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という用語の周知度	37.6%	36.3%	37.8%	29.2%	50.4%	50%
Ⅳ	保育所の待機児童数（申請待機の年間平均）	0人	0人	0人	0人	※0人	0人
	配偶者暴力防止法の認知度	85.2%	88.1%	90.3%	82.3%	67.6%	100%
Ⅴ	乳がん検診受診率（40～59歳）	37.1%	44.7%	49.6%	52.8%	※—	50%

※は平成28年2月末時点の実績値